

## 第2回 緑の基本計画庁内検討委員会 議事録

日 時：令和6年5月14日（水） 10時00分～12時00分

場 所：朝霞市役所 別館5階 大会議室

出席者：松岡委員長、奥田副委員長、村沢委員、金子委員、中谷委員、又賀委員、大瀧委員、濱委員、塩味委員、深澤委員、玄順委員、長島委員、横瀬委員、小笠原委員、藤原委員

### 1 開 会

事務局 （開会の言葉、連絡事項、配布資料の確認、スケジュールの確認）

- ・本日の資料は、5月28日の緑化推進会議の叩き台としてご確認いただく。
- ・「資料2 市民アンケートの実施について」は、第1回緑化推進会議の後、第3回庁内検討委員会でさらに検討予定。

### 2 議 題

#### 1) 朝霞市のみどりの現況について

松岡委員長 議題1について事務局より説明をお願いしたい。

（事務局より[資料1 朝霞市のみどりの現況について]を説明）

- ・都市化により緑被率は減少傾向にあり、特に農地の減少が多い。
- ・平成20年から平成25年において緑被面積が増加しているが、調査精度の向上により、面積の小さい緑被も抽出されるようになったことが要因であり、全体として緑被地は減少傾向にある。

松岡委員長 ご意見、ご質問があればお願いしたい。

村沢委員 2ページ目の表（緑被区分による緑被面積の経年変化）の中で公共施設以外の樹林樹木が増えたように思うが、その理由は何か。

事務局 樹林地が増えているわけではなく、樹木の成長により樹冠面積が増えたためである。適切な樹林管理がなされていないことも一つの要因であることから、緑被面積の増加が一概に良いとは言えない。

藤原委員 量と質の問題が出ていたが、文化財課で管理しているところでは、ナラ枯れが出ている。令和3年以降18本伐採しているが、ナラ枯れの影響は出ているのか。

事務局 城山公園ではナラ枯れの影響が大きく、200本くらい伐採している。しかし、緑被面積への影響は少ないと考えられ、緑被面積は増えている。ナラ枯れの被害状況を確認しながら、必要な伐採を今後も行っていく予定である。

濱委員 水面とは水草などを指すのか。

事務局 平成30年から令和5年にかけて水面が増えているが、水面を覆う道路構造物が無くなり、水面と判断され、水面の面積が増加した。

塩味委員 緑被率の計算は、どのように計算しているのか。

事務局 航空機による写真測量によるもので上空から把握できる面積である。

事務局 航空機による写真測量では、RGBと近赤外バンドを取得し、正規化植生指数を用いて緑地費を抽出している。この手法は多少の誤認識を含むため実際とのズレを含む。

村沢委員 A2で街路樹と書いてあるが、けやき通り等の街路樹が緑に塗られていない。街路樹は含んでいるのか。

事務局 街路樹も計測している。城山通りについても大木は緑被マップに載っている。しかし、小さい樹木など計測できない樹木もある。

深澤委員 道路整備課で、城山通りの街路樹の更新を検討している。イチョウが大きくなり、植え替えも考えているが、緑被率が下がるような樹木（ハナミズキ等）にすると良くないのか。

事務局 緑被率から見ると、残した方が良いとなるが、街路樹の計画では、みどりの側面からだけでなく、通行環境等、総合的に見ていると思うので、それに関しては問題ないと考えている。

中谷委員 壁面緑化や屋上緑化は含んでいるか。

事務局 壁面緑化については含んでいない。屋上緑化については、測定されていれば、緑被マップに含まれている。

事務局 現在、壁面緑化は含まれないが、壁面緑化も計測できれば、緑被率は上がるので、今後壁面緑化が増えてくれば、立体的な測量も検討したい。

松岡委員長 他に質問等なければ、この資料を5月28日の緑化推進会議にて提示することで合意したいと思うが良いか。

一同 合意

## 2) 市民アンケート調査の実施について

松岡委員長 議題2について事務局より説明をお願いしたい。

(事務局より[資料2 市民アンケート調査の実施について]を説明)

- ・ 回答方法についてご意見をもらいたい。都市計画マスタープランではQRコードでの回答も行っていたので、それも検討している。
- ・ スケジュールは、余裕も見て記載しているため、若干前倒しになる。ある程度確定したものを次回提示する。
- ・ 居住地の大字についてはどのように表示するか現在検討中である。
- ・ 問1～3は、前回のアンケートを踏襲する形で、経年変化を捉えるためである。
- ・ 問4 グリーンインフラについての設問であるが、回答が難しい印象もある。皆さんからご意見をいただきたい。
- ・ 問5 「購入」か「寄付」か、言葉の使い方についてご意見をいただきたい。
- ・ 問6 前回のアンケートを踏襲し、経年変化を捉えるためである。
- ・ 問7 公園の魅力が注目されているため、魅力向上のための設問である。
- ・ 問8 問7は市内の公園であったが、問8では、近くの公園の魅力向上のための設問である。皆さんのご意見をいただきたい。
- ・ 問9 前回のアンケートを踏襲している。
- ・ 問10 他にもあればご意見をいただきたい。
- ・ 今日の段階では皆さんからご意見をいただき、それをもとに修正し、28日の緑化推進会議に出す。その後8月の庁内検討委員会で確定していきたいと考えている。

金子委員 事務局から調査方法で、QRコードの話があったが、それはぜひ今後のアンケートはその形で進めていただきたい。

事務局 承知した。

濱委員 属性の性別は、今の時代、アンケート調査に必要か。

事務局 今回は都市マスタープランの考え方に合わせている。その時は、回答しなかった人は、4%程度。一番の目的は、子育て世代の方の緑に対する考え方を把握することであり、年齢や職業のクロス集計で判断できる可能性もある。こちらについては、事務局で再度必要性を検討し、判断する。

中谷委員 対象年齢が16歳以上としているのはなぜか。

事務局 前回のアンケートを踏襲しており、同じ 16 歳以上の回答で比較もでき、妥当と考えている。都市マスタープランでのアンケート調査は 18 歳以上である。

大瀧委員 問 10 について、北朝霞どんぶり王選手権も入れていただきたい。

濱委員 「市内の公園や緑地」と設問に記載されているが、市役所の中でのイベントは含むか。あさか新鮮野菜市は市役所の中のイベントである。室内のイベントも入るのであれば、北朝霞どんぶり王選手権も入れてよいのではないか。

奥田副委員長 テラスで実施しているものは入れてもよいのではないか。

事務局 あさか新鮮野菜市は、建物の中であるので再度検討する。

事務局 小さなイベントでも継続的にやっているものであれば検討したい。全部を抽出できていないため、次回の実施案までに事務局にご意見いただきたい。

事務局 あさか新鮮野菜市は削除し、北朝霞どんぶり王選手権を入れるということ等検討する。

事務局 じゃがいも堀り体験とあるが、その他に農業体験はないか。

大瀧委員 人参や大根も実施している。今年度は、田植えはなくなり、大根の収穫体験になった。農業体験として一緒にしてもよい。

村沢委員 寺社仏閣等民地を使ったイベントも入れてもよいか。

事務局 公共が主催して、公園で実施しているものを設問として想定した。朝霞市は、公共空間でのイベントが盛んという印象なので、川やシンボルロードのイベント等に対する市民の評価を把握したいというのがこの設問の目的である。

事務局 やはり基本的には公共空間とした方がよい。その他に記載するものについては制限を設けない。

村沢委員 問 7 や問 8 の市内の公園には、児童遊園地は入るか。一般の人は、公園というと児童遊園も入ると思っているので、整理が必要である。

事務局 公園に児童遊園を含む解釈で良いと考えている。

事務局 問 10 に関しては、公園ではない川等でのイベントも含んでいる。市民にとってわかりにくいと思うので検討する。

奥田副委員長 このアンケートで把握したいことをもう一度検討してもらいたい。その上で公園や緑地等の言葉について再度検討してもらいたい。

村沢委員 グリーンインフラについてももう少し詳しく書いた方がよいのではないか。

奥田副委員長 さいたま市のアンケートでは、グリーンインフラについて 6 割の人が知らないという結果であった。

事務局 グリーンインフラという言葉は知らない人が多いが、緑の機能については、知っている人も多いのではないかと考えている。このアンケート実施によって普及啓発にもなればと考えている。

小笠原委員 農地は入らないが、じゃがいも収穫体験などは含むのはなぜか。

事務局 農地をいかに保存していくか、という観点では体験等のイベントを含めて考えている。

塩味委員 緑被率の算出やアンケートのイベントに関する設問の中に、小学校などの学校という言葉が入っていないが、除外しているのか。

事務局 学校でのイベントは、今回のアンケートでは除外してよいと考えている。

濱委員 問 5 の各項目は、グリーンインフラとして、どれもかかせないものと思う。この設問は、限られた予算の中でどのように予算を配分すべきか、という市の政策決定に繋がっていくような内容だと思う。市民からのアンケート結果において、評価が低くなったものに対しても、市として今後投資をしていくのか。市民の意思が明らかになった時に、市はどのように予算配分するのか。

事務局 交通利便性が高い、緑豊かな町という朝霞の魅力を守ってだけでなく、どのように

活用していくのか、という視点が重要になってくる。アンケート調査で市民のニーズをつかみ、今後投資する際の判断材料にはなると考えている。

- 又賀委員  
事務局 グリーンインフラは入れていくのか。  
グリーンインフラは全面に押し出す必要がある。今までやってきたこともグリーンインフラという言葉で包含している。
- 又賀委員  
事務局 冒頭に基本的な考え方がないと設問に答えにくいのではないかと。今後はみどりの量だけでなく質を考え、生物多様性が大事な視点になってくる等の説明が欲しい。  
朝霞市においては、今後さらに緑が減少していくことが考えられる。しかし、既に市が保有している公園緑地に関しては担保性があり、それをどう活用していくのかという視点が大事である。今後どのように市の保有の公園緑地を増やすのか、その土地の魅力を高めるために、どのように質を上げて行くのかを検討し、その部分に投資をしていくことが大事と考えている。  
アンケート調査においては、このような考えを冒頭に記載することは難しいが、世の中の流れに関してはアンケート冒頭に記載したいと思う。
- 事務局 ネイチャーポジティブ、30by30 という目標を国も掲げている。日本は 20%が自然公園等で担保されている。残り 10%をどうするか、環境省や国交省で様々な取組を始めている。その中で企業緑地や里地里山が重要となっており、朝霞市としてどの斜面緑地を保全すべきかという評価が必要となってきた。  
これまでの緑の基本計画では定量的分析による評価に至らず計画がつくられてきた傾向がある。朝霞市の次期計画では、定量的な分析のもと評価を実施する予定であり、問 5 の設問で、市民の意思を評価の重みづけに使うことを考えている。
- 松岡委員長 問 4、問 5 の設問は回答が難しい印象があり回答率低下が危惧される。後段に移動するなど工夫の余地がある。
- 事務局 設問の順番、公園等の用語表現については、最終的にどのような回答を得たいのかを考え、再度検討する。また、冒頭に国の動き等を記載する。性別や年齢については再度検討を行う。問 10 には、北朝霞どんぶり王選手権を追加する。その他のイベントについては別途ご意見いただきたい。
- 事務局 問 8 における、近くの公園という表記はこのままでよいか。
- 事務局 身近な公園でどれくらい満足しているのかを把握したい。できるだけ多くの公園を網羅したいと考えているため、身近な公園を記載していただきたい。
- 奥田副委員長  
横瀬委員  
濱委員 公園の評価という意味では、対象年齢は下げた方がよいのではないかと。  
問 8 について、肯定的・否定的回答が設問によってまちまちであるがよいか。  
問 10 で複数の場所について答えた人は、問 11 は答えにくいのではないかと。  
問 11 の 7~9 は、イベントによっては答えにくいので、「そう思わない」につけてしまう人が多くなるのではないかと。
- 事務局 検討したい。
- 松岡委員長 事務局で再度検討し、5 月 28 日の緑化推進会議に可能な範囲で修正し提示することによいか。8 月の庁内検討委員会で最終的な実施案として取りまとめる。
- 一同 合意

### 3) 伝達事項

- 事務局 次回第 3 回庁内検討委員会は、8 月 6 日火曜日 14 時から 502 会議室を予定している。

閉会